

菅ノ口遺跡

所在地 豊田市下山代町丸山
(北緯 35 度 1 分 40 秒
東経 137 度 18 分 54 秒)

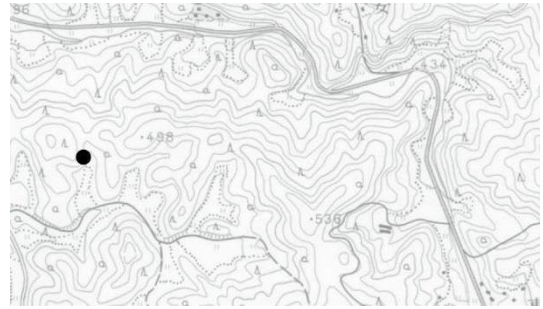
調査理由 豊田・岡崎地区研究開発施設用地
造成事業

調査期間 平成 25 年 5 月～8 月

調査面積 1,300 m²

担当者 成瀬友弘・米満武

調査経過 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成に伴う事前調査として、愛知県企業庁より委託を受けて実施した。



調査地点 (国土地理院 1/2.5 万地形図「東大沼」)

立地と環境 菅ノ口遺跡は豊田市西部の下山代町に所在する。これらの地域は東側を国道 301 号線に沿って流れる群界川の南側、豊田市と岡崎市の境界にあたり、標高は 440m 前後である。遺跡は谷の奥に立地しており、現在は主に杉が植林されている。近隣の遺跡としては、柿根田遺跡がある。

調査の概要 遺構・遺物の主な時代は西側と北側では中世、東側は縄文・古代である。
縄文時代の遺構・遺物は北東部の一角に集中した。ここでは北東側調査区外の山側から南へ 094SD が走っており、その溝の中から古代の灰釉陶器などとともに条痕文土器が出土した。099SX から条痕文土器が出土した。099SX は遺構の大部分が調査区外にあるので詳細は不明である。

古代の遺構・遺物は北東側から集中して出土した。089SX から、灰釉陶器や土師質土器が出土した。北東トレンチ周辺は、古代の遺物を多く含んだ包含層が堆積していた。

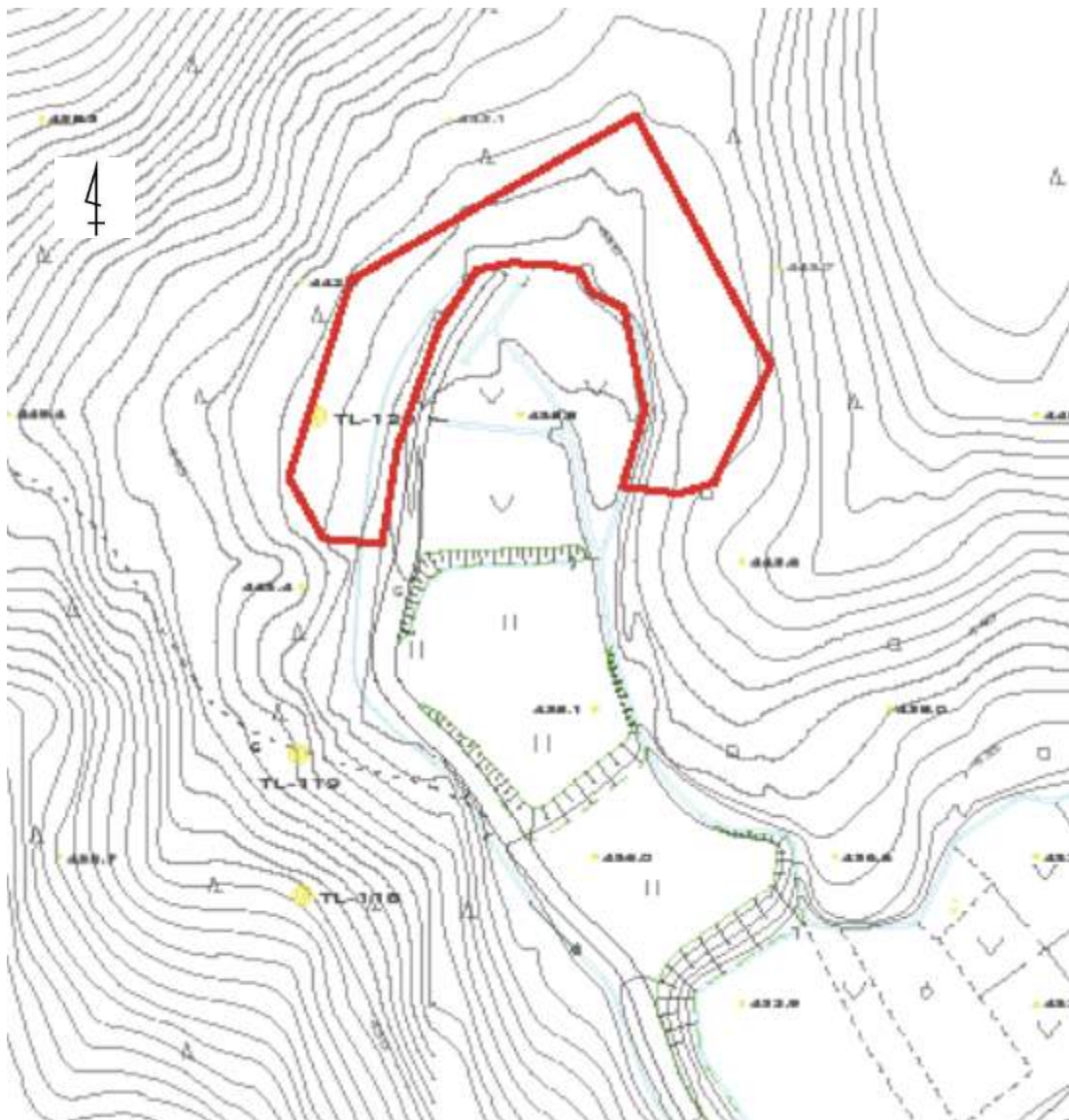
中世の遺物は西側・北側から出土した。西側の包含層から山茶碗、土師質羽釜等が出土した。また北側の谷地形の落ち込みの中に、山茶碗や加工された板材などを含む土が堆積していた。中世の明確な遺構は検出されなかった。

近世の遺構としては井戸を西側、東側でそれぞれ 1 基ずつ検出した。西側の井戸 006SE は素掘りの井戸であった。土の堆積の状態から廃絶後埋め戻されたと考えられる。東側の井戸 003SE は石組みでつくられていた。石組みは基礎に端部を半分切り落とした、4 本の松の丸太を井桁状に組んで構成していた。石材は地元でとれる花崗岩を利用していた。003SE、006SE とも時期を特定できる遺物は出土しなかった。近世の遺物は陶磁器や銅銭などが出土した。

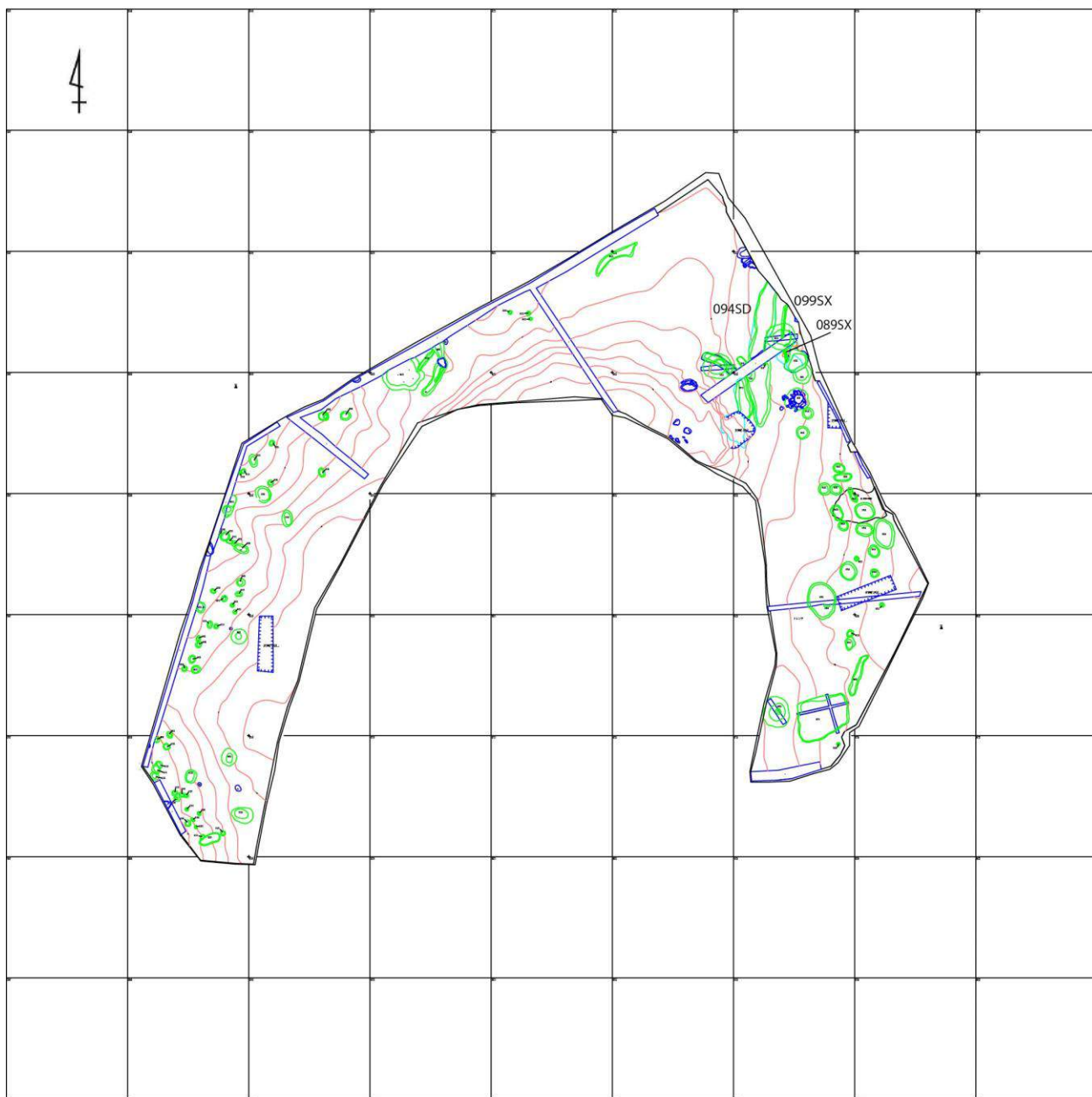
近代の遺構は炭焼き窯と考えられる 001SK、002SK、004SK を検出した。煙道はなく伏せ焼きの炭焼き窯と考えられる。いずれも時期を特定できる遺物は出土しなかった。また西側から牛の骨が入った 006SK を検出した。骨の状態から比較的若い個体で、雌雄の別は分からなかった。骨の下から銅線が出土したので、戦後に埋められた牛の骨と考えられる。

まとめ 今回の調査では、縄文時代、古代～近代までの遺構・遺物を検出した。縄文時代は 094SD や 099SX から遺構や遺物が出土しており、菅ノ口遺跡は縄文時代には人々の生活の場にな

っていたと考えられる。遺跡の北東側にある 089SX 周辺から古代の遺物が集中して出土した。遺物の出土量から菅ノ口遺跡で人々が最も活動的だったのは古代であったと考えられる。中世は明確な遺構が検出されず、遺物だけが出土した。遺跡の東西で主要な時期が違うのは、北側の谷地形に流れ込んだ土砂の影響を受けた可能性が考えられる。近世の遺構は井戸を 2 基検出した。特に東側の井戸は石組の立派なものであったが、この井戸を利用した人々の痕跡は、遺構から探ることができなかった。ただし遺構の状況や北側に平場があることなど、近くに遺構が存在する可能性を示唆している。 (米満 武)



菅ノ口遺跡調査区 1 : 1000



S=1:500

菅ノ口遺構平面図 (1 : 500)



垂直写真（南より）



北東部遺構写真（南西より）



近世以降の井戸（003SE）断ち割り（西より）



近世以降の井戸（003SE）最下部（東より）



近世以降の井戸（006SE）断ち割り（北より）



005SKから出土した牛の骨（西より）